

## ぼくのお兄ちゃん

箕島小学校四年 尾藤 康人

「ぼくのお兄ちゃんは、しょうがいがあります。」  
と言ったら、みんなは気をつかってしまうと思います。ぼくは、気をつかってほしくないです。なぜなら、お兄ちゃんもぼくも同じだからです。けれど、ちがう所もあります。

ぼくは、小さいころ、よくお兄ちゃんに顔をひっかかれたり、たたかれたりして泣くことがありました。そのころはなんでこんなことをされるのかわからず、お兄ちゃんに腹が立っていました。その度に、お母さんがお兄ちゃんについてゆっくりと話をしてくれました。けれど、そのころは、お兄ちゃんのしょうがいのことを理かいてきませんでした。そんなぼくにお母さんは、あきらめずにその都度、話をしてくれました。

「康人にはまだむずかしいかもしれないけれど、聞いてくれる。お兄ちゃんね、生まれてから成長がゆっくりで、歩き始めるのもおそかったし、しゃべるのもおそかったんだよ。友達と同じ物で遊ばなかったから心配になって、病院へ相談に行った時、『しょうがいがある。』と言われて、お母さんはショックで泣いてしまったんだよ。それぐらい『しょうがいがある。』っていうことは大変で理かいがむずかしいことなの。だから、あせらずにお兄ちゃんのことわかってほしいな。」

と話してくれました。今ではお兄ちゃんのしよがいのことを理かいてき  
るようになりました。お兄ちゃんは、小学校のしえん学級で、友達とは別  
に勉強しています。それまでは、しえん学級というクラスを知りませんで  
した。お兄ちゃんがしえん学級で勉強している姿を見て、ぼくにはできな  
いし、えらいなと思いました。

お兄ちゃんは五年生だけど、五年生ではない行動をすることがあって、  
ごかいされることが多いです。しよがいを理かいているぼくでも、ま  
だわからないことがあります。だから、周りのみんなは理かいてるのがお  
ぼくかしいと思います。理かいてきない時は、「なんで。」「どうして。」と  
聞いてほしいと思います。

ぼくも、まだお母さんに「なんで。」「どうして。」と聞きます。がまん  
できずにけんかをして、お兄ちゃんに当たることもあります。その時は、  
お母さんに、ぼくとお兄ちゃんは同じようにおこられます。お兄ちゃんは  
悪いと思って反せいするけれど、すぐに忘れてしまおうのがしよがいの特  
ちよのうの一つです。お母さんがあきらめずに向き合っているすがたを見た  
ら、ぼくはお母さんとお兄ちゃんを助けたいという気持ちになります。

ぼくのお兄ちゃんはしよがいがあるけれど、ぼくのお兄ちゃんはやさ  
しくてたよりのある大きなお兄ちゃんです。